

【特別書面インタビュー】大槌ゆかりの方に伺う 『今後の10年へ向けてコロナ禍を乗り越えるために』



© 田中丸豊次

音楽家
吉川武典さん

子供たちに 演奏や指導を通して音楽 の素晴らしさを伝えたい

<吉川武典さん 略歴>

NHK交響楽団トロンボーン奏者 / 東邦音楽大学特任准教授
/ 沖縄県立芸術大学音楽学部非常勤講師 / 高松第一高等学校音楽科中央講師

東京藝術大学在学中、新日本フィルハーモニー交響楽団に入団。1988年、第5回日本管打楽器コンクール・トロンボーン部門第1位、およびコンクール大賞を受賞。1991年、NHK交響楽団に移籍。1996～1997年、文化庁海外派遣芸術家在外研修員としてベルリンへ留学。2013年、香川県文化芸術選奨受賞。これまでに、ソロアルバム「風花賛礼」、「トロンボネッタ」、トロンボーン四重奏、金管アンサンブルなど、13枚のCDをリリースした。
トロンボーン・クアルテット・ジパング、トウキョウプラスシンフォニー、N-craftsのメンバー。

国内で新型コロナウイルスの感染が広がりはじめて1年が過ぎます。この1年はどんな日々でしたか？

演奏法のための研究、資料作りやレッスンなど、普段の生活ではなく、在宅だからこそ出来る新しい内容の活動をしていました。

こうしたときに大事にしていること、大事だと思っていることは何ですか？

自分や家族が感染しないための対策はもちろんですが、制約の中で学生生活を送っている学生の勉強のためのプログラムを確保すること。そして、何より自分自身が止まってしまったり、後ろ向きになったりしないよう、新鮮なアイデアで自分を成長させることを心がけていました。

コロナ禍でのエンターテインメント、観光、文化芸術のあり方とは？

リモートによる新しい展開は、積極的な人、消極的な人、さまざまだったと思います。しかし、そのことがもたらした新しい音楽体験には価値があったと思います。同時に、やはり生演奏でないといけないものがあることもはっきりわかりました。今後はネット配信と生演奏が混在する新しいフィールドになっていくと考えます。

大槌町との思い出や関係のきっかけを教えてください。

2011年、仮設の大槌中学に楽器を送るとともに、指導と交流のために訪れたのがきっかけです。その後、幾度にも渡り訪れ、慰霊祭での献奏やコンサートでの演奏、子供たちへの指導を通して、町民の方々と交流を深めました。風光明媚で、美食の街である大槌はつねに心地よく、なにより町民の方々の復興に対する情熱や優しい人柄から私自身が多くのことを学びました。三陸鉄道再開のイベントで演奏できたことも大きな喜びとともに、心に深く刻まれました。

大槌町ではふるさと納税や、通信販売サイト「大槌孫八郎商店」で、町特産品のPRに務めています。大槌の特産品と言えば？

わかめ、牡蠣、うに、磯ラーメン、日本酒・美味しいものの数々は、大槌を訪れる楽しみのひとつです。

今後、大槌町で、あるいは大槌町民と一緒に挑戦してみたいことは？

やはり音楽による交流です。子供たちに演奏や指導を通して音楽の素晴らしさを伝えたいし、さまざまな形で大槌での演奏活動が出来ればと思っています。

本年の活動予定を教えてください。

2021年12月に大槌応援のためのチャリティー配信コンサートの収録、2022年に配信を予定しています。NHK交響楽団の仲間と日本を代表する一流ピアニストとの共演により、震災復興を願って書かれた音楽を中心に、名曲の数々を収録する予定です。

大槌町民へメッセージをお願いします。

コロナにより、みなさんにお目にかかれない日が続き寂しいですが、来年こそぜひ伺いたいと思っています。3月11日のみならず、四季折々の大槌を訪れたいです。

(令和3年10月11日書面にてインタビュー)
企画・編集 大槌町産業振興課商工観光班
編集協力 (一社) 大槌町観光交流協会